

## 平成 22 年度大学職員情報化研究講習会～応用コース～ 第一分科会 討議内容 5 班

### 1. 概要

「学士課程の構築に向けて」（平成20年12月24日 中央教育審議会）によれば、ポートフォリオとは、学生が自らの学習成果の達成状況について整理・点検するものであり、大学はこれを活用して学生を多面的に評価する仕組みを構築することが求められている。

また、ポートフォリオの運用にあたっては、管理に要する労力や効率を考慮すると、紙媒体よりも情報通信技術を活用したほうが有効であると言える。以下、情報通信技術を活用したポートフォリオのことを「電子ポートフォリオ」と呼ぶこととする。

### 2. 目的

第5班は、それぞれの学生に社会人基礎力を獲得させるための電子ポートフォリオ活用モデルを構築することに主眼を置いて討議を行った。

なお、社会人基礎力とは次の3項目12区分からなるものである。

前に踏み出す力	(アクション)	主体性、働きかけ力、実行力
考え抜く力	(シンキング)	課題発見力、計画力、創造力
チームで働く力	(チームワーク)	発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力 規律性、ストレスコントロール力

### 3. 電子ポートフォリオモデル

電子ポートフォリオモデルを構築するにあたって重要視したことは、学生に積極的かつ継続的に活用させることである。そこで、学生の電子ポートフォリオに対する抵抗感を緩和するため、電子ポートフォリオを「日記」に見立てたモデルを提案した。このモデルでは、ポートフォリオの機能を①絵日記、②交換日記、③観察日記、④未来日記と表現しており、それぞれの種類が持つ機能を容易にイメージできるようにしている。

また、それぞれの日記を活用することにより、上述の社会人基礎力が養成されると期待できる。

日記の種類	機能	養成される社会人基礎力
① 絵日記	文章や電子画像を登録できる。日々の記録を蓄積するために活用。授業で学んだ事に限らず、生活の中で発見したことや経験したことなどを書きとめる。成功体験だけでなく、失敗したことや疑問に思ったことも記録させる。	主体性 実行力 創造力
② 交換日記	日記のうち、任意のものを他の学生に公開できる。また、他の学生の日記を閲覧して、コメントをすることができる。特に実習等については、積極的に情報発信させる。	働きかけ力 発信力 傾聴力

③ 観察日記	定められた点検項目に従って、自己評価を行う。定期的に自己点検を行うことで、自らの成長や変化を実感できるようにする。	課題発見力 状況把握力
④ 未来日記	理想とする未来の自分を具体的にイメージして書き出す。1ヵ月後、半年後、1年後、4年後に分けて作成する。目標達成度の評価を行う機会を定期的に設ける。	計画力

#### 4. 電子ポートフォリオ活用モデル

次に、発案した電子ポートフォリオの活用モデルとして、授業のデザインを試みた。授業は初年次履修科目として位置づけ、学部学科ごとに履修クラスを設定するものと想定している。

講義名：キャンパスライフ入門（ポートフォリオ活用術）		
目的：① 大学という場を理解し、円滑な大学生活を送れるようにする。 ② 電子ポートフォリオの利用法を習得し、活用を習慣づける。 ③ 大学の中での友人関係を構築し、チームワークを身につける。		
第1講	自己紹介	グループを作り、自己紹介。 電子ポートフォリオの相互閲覧を開始。
第2講	キャンパスライフデザイン	大学生活の目標設定。自己分析のきっかけ作り。
第3講	キャンパス探検をしてみよう	上級生（アシスタント）との関係作り。
第4講	キャンパス探検の発表準備	グループの発表テーマを策定。
第5講	発表会	プレゼンテーションスキルの習得。
第6講		感想をポートフォリオに記録。
第7講	1ヶ月間の振り返り	学習意欲の低下が見られる学生のフォローを行う。
第8講	大学施設を考えてみよう	施設を選択し、担当者にアポイントをとって訪問。
第9講		アポイントの取り方、挨拶、マナーの講習を行う。
第10講		人間力の向上を意識させる。
第11講	発表会	プレゼンテーションスキルの向上。
第12講		感想をポートフォリオに記録。
第13講	ディベート	ディベートの基本ルールを習得。
第14講		肯定と否定双方の立場に立って考えてみる。
第15講	1年間の振り返り	ポートフォリオを活用して自己省察を行う。 目標の再設定を行う。

#### 4. 総括

情報通信技術の特徴を活かしたポートフォリオや、その活用モデルを作成したことを通して、電子ポートフォリオの特徴を十分に理解することができた。

また、電子ポートフォリオを活用することで、PDCAサイクルに基づく授業や、教職協働が可能な授業、社会人基礎力（さらには、学士力や人間力）の養成を意識したモデルを創造することが実感できた。